

教宣 せぶん

「RAに開示」(3)

9月24日 問題解決

声をあげることの大切さ 再確認

9月24日、ようやく部店公開掲示板の文書から「RA(リスクアドバイザー)に開示」という“注釈”が消えました。7月16日に「おかしい」と支社長、母店業務部GLに問題指摘してから2カ月以上経っての解決です。この間、母店業務部GLと数度のやり取りをおこないました。「本社で一括してこういう仕組みを作っているのだから、支店ではどうすることもできない」「管下社員から問題指摘があったことを管轄する部署に伝える」という回答でしたが、明らかに上長たちもこうした表記がされることに「おかしい」と感じているようでした。また、本紙を読んだ仲間も職場から「おかしい」と声を発しました。

「わずかに数字を取り除くのにいったい何日費やすのか」と思いますが、図体が大きくなればなるほど、経営者が力を持てば持つほど、誰もが「おかしい」と思うことでも、一朝一夕には直らないものなのだと感じさせられました。常日頃、経営者が自慢する「風通しの良い会社」「自由闊達な社風」とは程遠いものを感じます。加えて当社は人権を大切にすることを宣言しています。自らの行為で相手がどう感じるのかという“普通の感性”が備わっていれば、当事者から指摘されるまでもなく、もっと早期に改善できたと思います。こういうところにも会社の「非常識さ」を感じてなりません。

ともあれ、職場から「おかしい」と声をあげることで、今回の問題は解決しました。「言っても無駄」と思ってあきらめてしまえばそれまでです。「司法」や「行政」の判断よりも、自分の言っていることの方が正しいと居直るような経営者が経営しているわけですから、私たちの周りにはこれからも「おかしい」と思えることがたくさん出てくると思いますが、お客さんと直に接する社員と

して、また働くものの生の声を大切にする労働組合の代表として、これからも「おかしい」と感じたことを「おかしい」と声をあげていきたいと思ひます。そうすることが、ひいては当社の「風通しの良さ」「自由闊達さ」にも結びついでいきます。